

大浦総合研究所

大浦勇三 著

ビジネス梁塵秘抄（五）

学・献・遊

遊びは仕事、仕事は遊び
遊びは仕事、仕事は遊び
仕事は遊び、遊びは仕事
仕事は遊び、遊びは仕事
遊びは遊び、遊びは遊び
遊びは遊び、遊びは遊び

目次

はじめに

第一部

〔遊〕

遊びをせんとや生れけん

第二部

〔献〕

仕事をせんとや生れけん

第三部

〔学〕

学びをせんとや生れけん

はじめに

平安時代末期、「梁塵秘抄（りょうじんひしょう）」という歌謡集が編まりました。平安時代末期は、日本の歴史の中でも先が見えない激動の時代でした。編者は後白河法皇で一八〇年前後のものといわれます。書名の「梁塵」は、その歌で梁（はり）の塵（ちり）も動いたという故事からとられました。

多くの歌が七五調四句や八五調四句、さらには五七五七七の調子など、さまざまなバリエーションからなります。

通常、「梁塵秘抄」といえば、

**遊びをせんとや生れけむ、戯れせんとや生れけん、
遊ぶ子供の声きけば、我が身さへこそ動がるれ。**
（岩波文庫版）

が有名です。

現在、日本をとり巻く環境は、平安時代末期に負けず劣らずの大変革期にあり、その規模はグローバルな広がりを持っています。グローバル規模の動きになればなるほど、あらためて日本の文化風土、日本人の特性が一段と問われることになります。

この二〇年、日本はなかなか前に進めず、ある意味で後退を余儀なくされましたが、「後ろ向きで前に進む」ことには限界があります。前へ進もうとする以上、きちんと正面を向く必要があります。平安時代の日本人は、乱世の中での人生を「遊び」「戯れ」と肚をくくり、難題や障害と真正面から向き合い、それを乗り越え生き抜いてきました。

二二世紀の我々も、この文化風土と特性をもう一度再認識し、覚悟を決めて思いを深め、生活と仕事に希望と喜びを見出していきたいものです。

本書は、仕事を通じて少しずつ抽斗（ひきだし）にため込んできたものを、真つ平御免の何でもある形式で纏めたものです。しかし、文学的素養などの力不足はいかんともし難く、お手本の「梁塵秘抄」とは比べることが憚れるレベルの内容になってしまいました。ただ、「遊（遊び）」「献（仕事）」「学（学び）」に対する思いの深さだけは忘れず、無我夢中でまとめたことだけはお汲みとりいただき、なにとぞご寛恕いただければ幸いです。

東京・芝にて

大浦 勇三

遊

遊びをせんとや生れけん

*三〇ページ、九〇文より
一ページ、三文を抜粋

○ サービス経済の本質は何か 一時間のサービスは中味が二〇分、雑談が四〇分 顧客を知る、仲良くなる 生き方や好みに理解を深める、五感を磨いて総動員 おもてなし・気働きの脳は老化が少なく遅い 規模ではなく複雑さにこそ妙味 平気で異端を歩む 時代を動かすのは主義でなく個性、とオスカー・ワイルド

○ 大事なのはどの道が正しいかではない どの道であれ、頂上に立つという信念 変化を凌いできた上での世界的行き詰まり 誰にも哲学の習慣化が求められる 現在と未来・形式知と暗黙知・利益と共通善 矛盾の解決が人類共通のテーマ 周囲が喜ぶことを大事にする 優れたものを認めないことこそ野蛮、とゲーテ

○ 出来ないことはやらない、朗報にはお陰さま 片方の目で泣き、もう片方で笑う 臓器は単独で機能しているのではなく 周囲の空間・他臓器を含めた場を形成する 平時はボトムアップで、非常時はトップダウン 文章は形容詞から腐りはじめる 合理性という目的のために他の全てを萎縮させてはならない、とハイゼンベルク

献

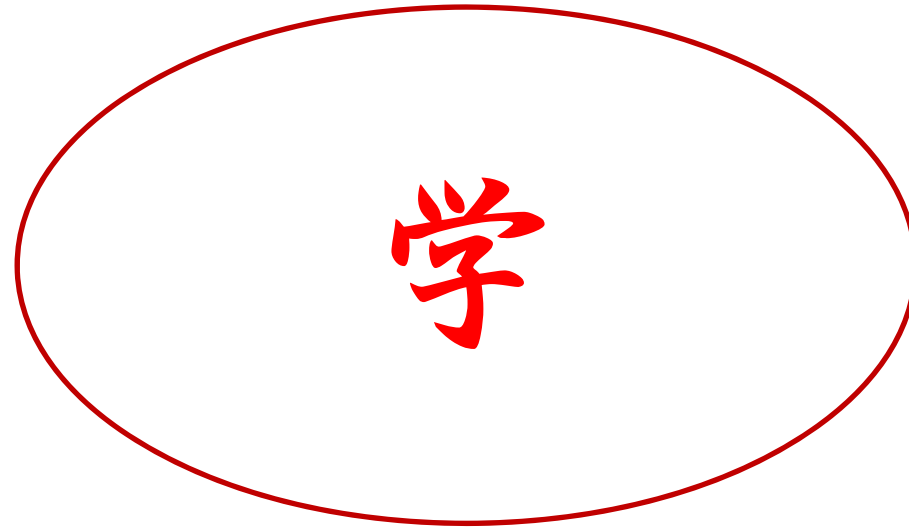
仕事をせんとや生れけん

*三〇ページ、九〇文より
一ページ、三文を抜粹

○鬱は暗いイメージがあるが、うつそうと繁るパワー
明るさは滅びるが暗さは滅びない、と作家の太宰治
目立たないことをしつかりやる 太陽の輝きは不要
マニュアルは明るさ それに頼らず裏の暗さを深耕

○世界標準は世界市場の八〇％ 欧米は技術の専門家でなく標準化の専門家
システムとは、構成要素とその関係性 更に関係性をスムーズに動かす力
アメリカ文化は自己主張、日本文化は環境適応 今後は宮本武蔵の二刀流
日本固有のものを日本人だけで抱え込まない 答えを探すより問い続ける

○企業の継続 一本の松明を空高く掲げ続けること
リーダーシップ フォロワーが主役の場をつくる
質の高いチームワークにはカリスマでなく奉仕者
チームづくりはアート、リスク管理はサイエンス



学びをせんとや生れけん

*三〇ページ、九〇文より
一ページ、三文を抜粋

○道具には一種の思いが貫かれている 踏みならされた道だけが道ではない
人生では、あらゆることが偶然の産物 一方で、すべてが必然ともいえる
価値競争のように見えるが、あくまでも価値競争 税制も民族固有の問題
人間が賢いのは経験自体ではなく経験に対する能力、とバーナードショー

○誰でもどこかで泣いて、今の場所まで来たはず
独りで泣いた経験のない人間は頼りにならない
人を育てる核心は 涙を秘めた自信を育むこと
内なる勝利なくば外の敵に倒れる、と岡倉天心

○演奏は舞台に登場する前から身体の中で始まる、と音楽評論家吉田秀和
楽器による演奏はその延長線 身体の中の旋律が楽器を通じて音になる
多様な人材の登用に積極的な企業 常に心の中で音楽が流れる組織風土
自由度が大胆な発想を生む より以上に考えて、より以上の存在になる

大浦勇三（おおoura ゆうぞう）

oura@office.email.ne.jp

大浦総合研究所 代表

<http://www.mm.jp.or.jp/oura/>

早稲田大学卒業、筑波大学大学院修了。

米国大手コンサルティング会社 アーサー・D・リトル 主席コンサルタントを経て現職。主担当領域は、経営改革、経営戦略&情報通信技術（ICT）戦略策定、業務改革／組織改革、研究開発／商品開発マネジメント、ナレッジマネジメント&イノベーションマネジメント、人材マネジメント、コーチング&メンタリング、プロジェクト&プログラムマネジメント、ベンチャービジネス支援等のコンサルティング。

主な著書には、

- ・「イノベーション・ノート」（PHP研究所）
 - ・「IT技術者キャリアアップのためのメンタリング技法」（ソフトリサーチセンター）
 - ・「よいコンサルタントの見分け方、かかり方」（清語会）
 - ・「ナレッジマネジメントが見る見るわかる」（サンマーク出版）
 - ・「図解ナレッジ・カンパニー」（東洋経済新報社） ほか
- その他新聞、雑誌、ウェブサイトへの寄稿多数

「ビジネス梁塵秘抄（五）」（**抜粋**）

著者 大浦勇三

二〇一三年三月 初版 第一刷発行

大浦総合研究所

〒一〇八・〇〇一四 東京都港区芝四丁目一六・一・二〇〇五

◎大浦総合研究所

大浦総合研究所の許可なく複製・改変などを行うことはできません。